

## 棚田・畦地の緑化でふるさと再生

長岡緑地環境協同組合 技術開発部 青柳裕之  
 新種芝生であるティフブレアを植栽しその後の定期的な発芽成長、繁茂状況の追跡調査を継続しています。  
 ティフブレア種は、環境ストレスに強く、根域が深く、被覆力が旺盛な品種です。またアレロパシー物質を含むことが明らかになり、他の雑草を寄せ付けない特徴を持っています。  
 また、カメムシ類の誘引や、病気を感染させる可能性が低い品種です。  
 17年7月16日 試験植栽作業を実施 虫亀地区  
 18年8月28日 ティフブレア人工芝張工施工 虫亀地区  
 9月13日 試験植栽作業を実施 竹沢地区



9月13日 竹沢地区

各回とも地元の方々と共に、全協会員参加の下、汗まみれになりながら実施しました。今後も、この緑化品種が震災地復興に役立つことのみならず、様々な植生(例えば堤防緑化、公園緑化、棚田の畦畔安定緑化、等)に生かせるように追跡調査を継続し適性を判断して、各方面に提案出来る体制を作っていくことが大切と考えております。

## かけはしの森 育樹祭

長岡市栖吉町ふれあい農業公園にて今年も春と秋の2回にわたり、市民の皆さんと共に草刈、チップ敷などの作業を実施しました。



## シニアワークプログラム

新潟県のシルバー人材センターに依頼され、55歳～65歳のみなさんを対象に再雇用の為の技能講習会を実施しています。本年も協会の指導のもと、造園一般に至る基礎技術の指導が行なわれました。



# 山古志フィールドミュージアム構想

## 中越震災・みどりの復興シンポジウム実行委員会

山の暮らしの安定化はもとより、地球温暖化の防止対策、水源の安定供給等、世界的脅威となっている自然環境は正の一助として、最終的には全国の中山間地振興にも寄与する、モデルプロジェクトとしての取り組みです。



### 山古志支所・会館・体育館

- ・外部応援者との交流の場
- ・全国に向けて山の暮らしの発信拠点

### 自然観察ゾーン

- ・山肌の伏流水を活用した水路が作るビオトープ空間
- ・自然植生を再生させた樹林に覆われたエリアに森林浴や自然観察を楽しむ。

### 農の体験ゾーン

- ・農地は耕作者の協力を得、棚田・棚池を中心としたシンボリック景観。
- ・冬季は賽の神、かんじきレース、かまくら、雪の彫刻などイベントで外来者との交流の場。

### 山古志小・中学校

- ・全国、世界に向けて高度な環境教育を発信、(山村留学生・新入教員などの受け入れ)
- ・国際レベルの環境会議の開催地

### コミュニティゾーン

- ・他の4つのゾーン並びに周辺農地を含め様々な交流を深める場
- ・訪れる人たちの自由な発想を受け入れ日々進化する交流広場

## 全日本花いっぱい長岡大会 5月27.28日

大会に向けて協会でも早くから会場設営の準備に取組んでまいりました。会場に設けられた田園風景の象徴「はざぎ」や山古志の錦鯉が多くの来場者に喜ばれました。



## 市民講座 庭木の冬囲い教室

冬本番の前に冬囲い講習会を実施しました。受講された皆さんは技術を習得しようと熱心に取り組みました。



## (社)長岡市公園緑地協会 公共緑地災害対応規定 平成18年9月8日改定

### 協会の災害対応規定が改定 災害に備え、より迅速かつ的確に!!

この規程は、平成4年の協会設立時に策定されましたが、この度の広域合併により市域が拡大したことからその対応を踏まえ改定されました。内容は、社団法人として市域の公共緑地及びそれに順ずる範囲の災害対応活動に必要な事項を五章二十二条からなる規程として定めたものであり、公共緑地保全活動の万全を図ることを目的とし策定されました。又、現在市で策定中の長岡市地域防災計画の中の「公園施設の応急対策」の項に係関係機関として明記される予定です。

指揮本部は市役所公園緑地課と連携して設置、速やかな対応を目指します。警戒態勢並びに隊の出動区分は、次のとおりとします。

レベル 1 待機・警戒 パトロールし状況を本部へ逐次報告	レベル 2 第一種出動 各社単位で対応のできる程度の範囲
レベル 3 第二種出動 「災害対策本部設置」 協会単位対応	レベル 4 特命出動 行政連携で要請のあった場合の出動

\* 災害対策本部は公園緑地課内に置き共働体制を布く  
 \* 出動は活動の安全が確保された段階からとする  
 なお、災害の規模によっては市と協会だけでは対応しきれないことも予想されます。自らの手で地域を守り育てる気概とシステムの構築が急がれます。地球規模での環境破壊が危惧される現代、地域が一体となって、緑も心も、豊かな地域づくりを目指そうではありませんか。  
 \* 協会ホームページにて災害対応規定の全文を掲載しています。

# 中越震災・みどりの復興シンポジウム

「みどり豊かなふるさととの復興と発展を願って…」

- 1日目 基調講演「中越震災復興本番…待ったなし!」  
 パネルディスカッション 大会宣言の発表  
 意見交換会
- 2日目 現地視察  
 分科会 棚田分科会・生活村づくり分科会  
 森づくり分科会・観光景観分科会

基調講演 講師  
 首都大学東京教授 中林一樹氏



## 大会宣言

- 復興から復興へ・ランドスケープからの発信
- 1 「山古志フィールドミュージアム構想」を提起し、その実現が可視化します。
  - 1 山肌の再生を目指して「山のみどりのオーナー制度」を発言します。
  - 1 地域の再生に資する森づくりを推進します。
  - 1 造園特有の伝統技法と新技術を持って、地域と共に持続性ある活動を展開します。
  - 1 中越を超えて様々な人々のネットワークにより、これを具体化していきます。
- 19年3月、この度のシンポジウムをまとめた報告書を配布する予定です。



- |     |          |      |       |       |         |       |             |       |       |      |          |
|-----|----------|------|-------|-------|---------|-------|-------------|-------|-------|------|----------|
| 秋山寛 | コーディネーター | 鈴木重吉 | 実行委員長 | 平井邦彦氏 | 長岡造形大教授 | 植木昭一氏 | 新潟県長岡地域振興局長 | 丸山結香氏 | 代表取締役 | 渡辺斉氏 | 長岡市復興管理監 |
|-----|----------|------|-------|-------|---------|-------|-------------|-------|-------|------|----------|



現地視察



分科会